

刊 夕 日 六 月 五



定価 一冊五銭 一月五拾銭 郵費別  
廣告料 五銭 十二字 一行 金五拾銭  
日曜祭日の翌日休刊  
発行所 常警日新新聞社  
印刷所 常警日新新聞社

### 新貨幣論

金のいらぬ極樂國土建設案

神 木 鷗 津

(四)

八、大金塊と人生  
金本位の貨幣制度は金の獨占、私有貯蔵に便利であるため、人類をして黄金の走狗たらしめ金に成らぬことには一切手を出さぬ、黄金萬能時代を現出した。而かも金そのものは食へもせず、着られもせぬ。装身具か防蝕金属かの狭い實用に供せられるのみで、人類の高遠な理想より顧みる時、それは下らぬ一つの金物に過ぎない。

假りに黄金が地上より姿を消したとしても人間生活は質において決して貧弱とはならない。

尊きは衣食住の糧であつて金はたゞ交換手段としての一媒介物に外ならぬ。

この大金塊を正貨準備金として國庫に積み上げておくことは、國民の衣食住に直接何の交渉はない。單に海外貿易の帳尻を決済すれば足る筈だ。

九、正貨は黄金に限らず金貨はなくとも吾人の經濟生活は立派に營まれ得る現に吾々が日常使用してゐる賣買の仲介機關は、金貨で

はなくては紙幣、即ち札であり、進んで銀行券小切手商品切手までも流通してゐる紙幣の背後は必ず金貨でなくては流通力がないといふ法はなく、制度は人間相互の約束に外ならぬから、交換券の背後は、ブラチナであらうと、木材木であらうとそれは問題でなく、政府の保證によつて、交換價値を有しそれにて希望の品が支障なく購求し得らるれば足りる譯だ。

正貨といへば、黄金に限らねばならぬやうに考へるの歴史的原因に囚はれた錯覺である。現に正貨として

### ノート

握手は長上から目下に、女から男に求めるもの。

の黄金を失つた大戦後の獨逸はレンテン紙幣制度を採用した。

レンテンは金貨を準備せず土地家屋その農工商の經營財産を準備として、紙幣を發行し、金本位の慘劇

を救済したのである。今や金を中心とする世界經濟は行き詰つた。眞の國家經濟立て直しは先づ金本位を清算するにある。

十、流通力の根本

二明日の献立二

【朝】すまし汁—高野豆腐—ゆば。  
【晝】にしめぎせい豆腐、くわぬ。  
【晚】わん—かつをむねぎ—つゆ—生姜、

元來金はなまの黄金のまま流通するところに、その價値があつた。その黄金が紙幣に姿を代へたことは、人民が金を政府に貸して、その證文としての札を手にしたことであり、従つて金に對する安心は政府に對する信用程度によつて上下する信用だに堅固であるなら正貨は米でも材木でも差し支へない筈で、現に吾々は不換紙幣を手にして安心して賣買交換してゐるのである人と人との間に何等、信頼するに足るべき仁義なく、權力の介在なき未開時代にあつては腐敗性なき黄金こそ唯一の頼みであり力であり且つ價値でもあつたが實力機構の具はつた現代の國家的團結の下にあつては國

家の流通この紙幣流通の根本力となるべきである。

十一、新貨幣制具体案  
人生には、勞働と原料と智能とさへあれば黄金はなくとも米でも麥でも軍艦でも大砲でも出来る。

價値の正体は貨幣ではなくて原料と勞力との合体に外ならない。國家には資源さへあれば何を造り出すかは人の問題だ。先立つものは金、金がなければ何んにも出来ぬ」といふのは因襲的の制度に囚はれてゐるのである。問題は如何に價値勞働を確證し、保證すべきやにある。その結論として左の二項の斷案を提唱する。

一、金本位制を徹廢すること。

二、衣食住の三に對し最重要の普遍的實用品、たとへば米穀綿布木材の如きを本位としこれを金貨に代ふる基本準備とすること。

蓋し直接かつ確實に勞働を保證するものは生活の必需品だからである。

而して新貨幣は在來の圓錢厘の稱呼をそのまゝ踏襲するも、交換價値の表示は金によらず、圓より金とは兌換せず、生活必需品を以て換算兌換せしむるこの條件を完全に保證するために生活必需品の全部を政府の獨占事業とする。

進んでは他の大量生産品をも國家經營とすれば物價は全く安定し國民生活は保證され、金がなくて食うに困るといふが如き生活難は解

消される。而して本制度は國民が信頼し團結し協力して築き上げた大家族主義制度の主現によつてのみ實施完成さるゝものなることを明記しておく。

鹽 豚  
肉 蒲 鉾

田 町 三三三屋

平新川町十九

外 科 木村病院  
産婦人科  
電話一六四番

婦人科 院長 木村寅次郎  
電話一六四番

内臓外科 醫學士 内 木 宗 八  
整形外科  
器泌尿科

旭硝子株式會社製品  
赤菱印  
板 ガ ラ ス

製造賣販  
硝子食器  
其他各種

松崎硝子製作所  
平町新川町(電話一四二番)  
仙臺市榮町(電話五九七番)

支工場

小兒科 専門

特ニ乳幼兒ノ康健相談ニ應ズ。

平町 ねずみ坂

渡 邊 醫 院  
電話一六一番

美味!  
芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社  
電話一〇番

三井タクシ

電話六八五番

# 不良の驅除策に

## 最新式乾繭器を貸與

### 平蠶系取締支所本年度の試み

#### 更に蠶教師も増員

平蠶業取締支所では愈々春蠶期に入り管内には早くも今明日頃より掃立の開始を行ふ向もあるので掃立後繭の蠶組發生による不良繭の驅除を徹底的に行ふ事となり今年には縣より最新式乾繭器五十餘臺を譲受けて植田四倉兩市場及び有力な出荷組合等に貸付ける外養蠶教師を四倉市場に五名植田市場に二名配置して優良繭の産出に馬力を掛ける事になつた

# 大浦農倉の

## 共同販賣高値

前回に比し十五錢高

石城販賣利用組合大浦農倉倉庫の共同販賣は昨五日同所にて行はれ出品米四百五十四俵を二部に分けて入札の結果第一部は四等建値八圓二十四錢を以て平町の青木要次郎氏に、第二部は建値八圓二十一錢にて四倉町渡邊留五郎氏に落札されたが前回に比較すると一俵に付十五錢の高値を見た

# 耕作不能と

## 大野部落民陳情

江筋が低くて水が通らぬ

小川江筋組合に於ける改修工事の既報の如く匡救事業として工費五萬六千五百圓をもつて九月頃から着工される事に決定を見たが同江筋の末流石城郡大野村字戸田部落は耕地が江筋より高く灌漑に非常な不便を呈じ

# 入遠野村も

## 定員超過

八日村議改選

石城郡入遠野村に於ける村議改選は八日行はれるが定員十二名に對し現在のところ十三名立候補してゐるので結局一名が落選の憂目を見る事になつてゐる

# 第二校兒童貯金

## 一萬五千圓突破

尋高延人員千二百四名

平第二小學校に於ける現在の兒童貯金額は尋常科一千三十三人で一萬三千七百五圓三十三錢、高等科百七十一人で二千二百四十四圓六十四錢、合計一萬五千九百九圓九十七錢にて一人當り十三圓二十三錢である

# 淺野翁記念館

## 明日開館式舉行

地方有志を招いて盛に

三千の従業員が職金して完成した磐城炭礦社長故淺野總一郎翁の記念會館は明七日午前九時から現社長淺野淺一郎氏外前川事務其の他重役社員従業員一同列席の上盛大に舉行される、當日は館内に設けられた淺野翁の銅像除幕が故翁の令孫倉田龜之助氏令嬢洋子(ハツ)さんの手で行はれるが全山はこの日を祝ふ爲臨時休業して數々の催しを試みるの

# 班葉病が續發し

## 山間部落麥不良

郡農會驅除に大童は

石城郡上遠野入遠野田人方に於ける山間部の麥作は天候不良の影響を受けて班葉病發生が最近多くなりつゝあるので石城郡農會では此が対策として温湯浸法に依る驅除を奨励しつゝあるが被害の如何によつては株の燒却又は抜切り等に依る徹底的驅除法をも行はしめる模様である

# 勿來農會の

自力更生町民大會 既報石城郡勿來町農會主催の自力更生講演會は本日同町青年會館に開催される豫定であつたが都合によつて明七日に變更された當日は講演會終了後同會場に於いて自力更生に關する町民大會を開催すると

# 不合格一臺もなく

## 自動車々々体檢終る

平署管内始まつての好成績

平署管内自動車の車臺検査は去る一日より今日正午迄八幡小路グラウンドに於て保安課矢吹部長及び佐川技手に依つて施行されたが總検査車体數は百九十臺にて不合格は一臺もなく成績頗る良好であつたと

# 磐中運動會

各競技好記録續出

昨日開催された磐城中學校陸上大運動會に於ける最高記録は左の如く各々賞状及びメダルを授與された (百米)十一秒九 五ノ四 (二百米)二十秒九 二ノ四

て來たので近く縣より表彰されると  
植田町に  
十五日から開く  
石城郡植田町小川福太郎、小宮山皆吉、永山白三、古川英次郎の四氏は本月十五日より十九日迄同町に臨時家畜市場を開く事となつたが出場頭數は二百餘頭の豫定である

# 家畜市場

第一校の  
昨日の職員會議で、平第一小學校では五日職員會を開き本年度五月以降に於ける体育行事を左の如く協議決定した  
(五月)月次校庭運動會  
(六月)体操演習會(七月)耐熱行軍(八月)夏季体育講習會、臨海學校、關井嶽一泊登山(九月)月次遠足運動會(十月)秋季大運動會(十一月)驛傳競走公レコード作成(十二月)月次遠足運動會(一、二月)耐寒行軍(三月)月次遠足運動會

# 體育行事

草野校の遠足 石城郡草野小學校にては六日全校兒童の遠足運動會を催した  
玉川果樹組合總會 石城郡玉川村果樹組合では明七日午後一時より村役場に於いて役員會を開き役員改選及び本年度事業に就いて協議を行ふ

# 調査を急ぐ

調査委員汗だく  
平稅務署の所得稅調査委員

泉村保育所表彰  
石城郡泉村の保育所は昭和五年開設以來農繁期の託兒所として優良な成績を擧げ

# 温泉神社祭典を期し 明日喜びの竣工式舉行 上水道全く完成して

## 湯本町民水饑饉から救はる

既報長年水饑饉に悩んでゐた湯本町では工費三十四萬七千七百四十八圓を投じて上水道の敷設計畫をたて去る昭和六年六月一日工事に着手して以來鋭意工事を急いだ結果當局の苦心むくむくられて昨年九月下旬豫定より早く竣工を見たので愈々明七日午前十時から縣社温泉神社の祭典を卜して内務大臣の外知事以下縣官等七百餘名を招いて同町小學校庭で盛大なる竣工祝賀式を舉行される

## 湯の町は裏々迄 歡喜に包まれる

### 華やかな催しの數々

一萬餘の湯本町民は今日の喜びを祝福する爲午前旗行列、午後は提灯行列を試みる外入山炭礦従業員の假裝行列式後大舞臺を設けて藝妓の手踊りを催す等全町は舉げて歡喜に包まれる事になつたが特に小學校では佐藤訓導新作の祝歌を全校生徒にうたはしめて全町を練り歩く筈である

## 榮ある表彰 を受ける人々

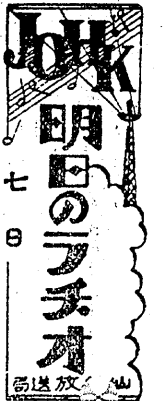
當日湯本町では工事功勞者として左記諸氏の表彰を行つた  
代議士鈴木辰三郎 同比 佐昌平 入山炭礦所長吉田宗雄 磐城炭礦所長菅

## 夫には離縁 養父には慰藉料請求

### 虐待された若妻の訴へ

### 平支部に提起

養父と夫とを相手取つて離婚並に慰藉料請求の訴訟を平支部に提起した話——石城郡草野字池田根本たか(三)さんは平町門傳辯護士を代理人とし同郡大浦村大字下仁井田字樋向二十六番地根本三郎(三)及び養父助三郎(四)を相手取り平支部に離婚及び二千七百七十九圓の慰藉料請求の訴を提起した内容は原告たかさんは平



明日のラジオ  
今夜も明日も南西の風晴曇相半す

## 今晚の部

童話「二本松少年隊」就倍季雄  
後六、二五 ことばの講座「外國語の讀かた」(一)市河三喜  
後七、三〇 講演  
後八、〇〇 ヴァイオリン  
ピアノ二重奏 ヴァイオリン、ソナレキサンダーモ  
ギレフスキー  
後八、三〇 新内「生寫朝

## 明日の部

前九、一〇 榮養料理献立  
「辨當(十七)淺淵と野菜の甘煮」榮養研究所  
前九、三〇 子供の時間  
童話 銀杏童話學院兒童

朝喜好家滿登 靜奴  
後二、五〇 詩吟  
後三、〇〇 浪花節 敷島大藏  
後六、〇〇 子供の時間  
ラヂオスケッチ「尋常一年」生演出金の城音楽童話會 指揮梅田久雄  
後六、二五 講演  
後七、三〇 人形浄るり  
「金比羅利生記花上野譽碑志渡寺の段」文樂座より中繼  
後八、三〇 合唱と管絃樂  
新交響樂團練習所より中繼  
後九、〇〇 獨唱とピアノ  
獨奏 獨唱マリアトルビ  
アノ 獨奏及伴奏レオン  
ロク

## 米屋の次男坊

### 女給と戀の道行

茨城縣水戸市外常磐村字柳内三精米業金子藤太郎次男晃(三)はかねて戀になつて居た水戸市和泉町カフエ「大陽方女給輝子(二)」を連れ石城郡内郷村の親籍を頼つて無斷家出したので平署に届出があつた

## 決闘殺人公判

### 平支部で開廷

### 来る十七日午前九時から

九月二日子供は死亡したが死に類せる愛兒の危篤をも知らせず又親子の情別もさせず三郎は原告に對し夫としての愛情なきは勿論惡意を以て原告を遺棄し且つ重大なる侮辱を加へ助三郎は同情に堪へざる虐待及侮辱を興へたるものであると云ふにある

## 若僧の家出

### 實父から捜査願

石城郡玉川村字林城居住農五十嵐留五郎三男留七(三)は昨年中親より三百圓の資金を受けて水戸市にてカフェを開業したが不況と無經驗から失敗し實家に歸省中去的四日夜父親に申譯ないからと無斷家出したので自殺でもされてはと實父から本日平署に捜査方願出た

## 少年消防員に 法被をさせる

### 錦村小學校で考案中

石城郡錦村小學校の少年消防隊では消防作業の實際化を計る爲八月より二百名の隊員に法被を着用せしめるべく目下考案中である

# 義経

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

第三百三十一號 上田馬之助

投節の唄ひ手

大細川侯の分家、細川長門守は江戸本所中ノ郷に邸があつて俗にこれをとんび細川と云つた。それは槍の覆が鷹の形をいたして居つた故、後の長門守は能登守と改めました。本所でとんび細川と云へば知らぬ者はない、尤も本所には三笠に夜鷹小笠原と云ふ旗本が居りました。何んで夜鷹小笠原と申すか、それは此邸の此の方に夜鷹と名付けた最も低級な淫賣婦が居りました。それで此の旗本を夜鷹小笠原と云ふ、また本所林町彌勤寺橋の際に湯灌場大久保と云ふ旗本があつた、それは此の邸から彌勤寺の湯灌場が見える、それでこう云ふ異名を付けた、江戸時代の平民は家屋を有して居る者ならずば死者を自宅にて湯灌をする事が出来ない、そこで寺へ持ち込んで坊さん立會人として湯灌をする、それで寺から湯灌をする湯灌場がある、さう云ふわけで此の湯かん場が見えるから湯かん場大久保と云ふ、或る晩三笠町の小笠原の門を叩いて

○『お頼み申します』

と云ひながらまたはげしく門を叩く

門『何だ』

○『夜鷹小笠原様はこちらでございますかへ』

門『黙れ、夜たか小笠原とは何



云ふ話がある、さう云ふわけでとんび細川なども有名でした、其の家來の上田馬之助、劍術がよく出来る所に剛膽で其の上体格もよし、見たばかりで普通の人には氣を呑まれて了ふ、モウ二十五六の時には家中で上田の先方に立つて互角の勝負をする者はない、ある夜友達と二人で吉原へ遊びに行つた、おそくなつて戻ると同伴の者が

○『オイ上田、投節を聞かしてくれ』

上げて唄つた、するとバツ／＼と音を立て出て来たは一頭の野良犬、ウーッと唸つて上田を目掛けて進み寄る

馬『何だこいつは、投節を聞いて唸るとは野暮な畜生だな、彼方へ行け』

としかり付けたが犬にはそんな事は感じない、飛付かうと毛さかだてウーとまた唸つた、この時上田は犬の面の前へヌツと右の足を出した、飛付かうとした處へ足を出されて犬が後へさがつた、其處を上田がポーと鼻を蹴つた、犬はキャン／＼と悲鳴を揚げてグル／＼と廻るとバツリと倒れた

馬『死に居つた畜生、此奴は狂犬だな』

と云ひつゝ、足でゴロ／＼とかがしたが

馬『何うだ劍術の極意が判つたか』

と同伴の者に云つた

馬『極意であらう、何故これが極意と申すに、犬が飛び付かうとした處へ足を出した、犬の意外に出た爲犬が吃驚して後へ退つた其處を蹴つて殺した、敵の意表に出で先づ膽をひしぎ、さうして勝利を得る、これが武道の極意だよ』

○『成程、然う云はれば宜く判る、しかし先方は犬で貴公は馬だ、其上馬は蹴るを以て得意とする、して見れば蹴殺したと不思議ではない』

と同伴は笑つたさうです。この事は細川侯の家來片桐徳藏と云ふ人から私が少年の頃聞いたこととございませう、片桐さんは維新の際、京都の細川邸に在つて却々國事につくした方でしたがモウ世を去られたさうです。實に好人物でした、上田馬之助は武藝にかけては他人の追従をゆるさぬ技倆があつて、それで粹な人でした。吉原などには宜く遊びに行き、彼的美聲で大分艶聞を製造したさうです、まア何にしても細川侯の家來で屈指の人物。

内科・小兒科・花柳病科

## 藤沼醫院

入院需應

平町紺屋町 電話五〇七番

貸切の●●●

御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

外科専門  
花柳病

## 木村外科醫院

入院自炊の便あり

平町五丁目橋際 電話三〇九番

# お醤油は……ヤマフル

醤油味噌  
たひら 正宗  
鯉節 食料品

## 山崎合名會社

福島縣平町(電話營業部)醸造工場三七  
山崎生命製糖代理店 山崎與三郎